

テーマ別シンポジウム

■ 2021年9月8日(水) 15:30～17:30 | 会場5 Zoom

**生涯スポーツ研究部会【課題C】テーマ別シンポジウム／国民の運動・スポーツ参加の現状
および問題点：国民のスポーツ権を保障するための施策立案に向けて**

コーディネーター：中野 貴博（中京大学）

ここでは、「国民すべてのスポーツ権を保障する社会構築」を大命題とし、それに基づく生涯スポーツ社会を実現するための施策立案や現状施策の課題、そして、適切な環境構築への提言をすることを最終目的とします。あらゆるライフステージにおける運動・スポーツ参加を促進するための施策立案に少しでも役立つものとなれば良いと考えています。本企画は複数年に渡って実施する予定であり、初年度の2021年度は、様々な世代や対象者の運動・スポーツ参加の状況を共有し、施策や環境上の問題点、および、今後求められる施策などについて議論したいと思います。とりわけ、運動・スポーツ参加の減少が社会問題化している若年世代、そして、現状の政策等では不十分であると思われる中年世代や女性を対象とし、3名のシンポジストにその現状と課題について提起いただきます。各シンポジストからの提言を踏まえ、フロアの皆様と国民のスポーツ参加率が少しでも向上するような方策について議論したいと思います。その上で、今後の施策立案やそのために求められるエビデンスの収集につながるような議論を行うことを目指します。

15:30～16:10

[生涯スポーツ-SC-1] 中年世代の運動・スポーツ参加の現状と課題

*澤田 亨¹ (1. 早稲田大学)

16:10～16:50

[生涯スポーツ-SC-2] 若年世代の運動・スポーツ参加の現状と施策立案に向けた論点
「スポーツライフ・データ」を手がかりに

*宮本 幸子¹ (1. 笹川スポーツ財団)

16:50～17:30

[生涯スポーツ-SC-3] パーソナリティタイプに基づいたスポーツ・身体活動の促進のすすめ

*小笠原 悦子¹ (1. 順天堂大学大学院)

テーマ別シンポジウム | 生涯スポーツ研究部会 | 【課題C】 人生100年時代に向けていかに人々のスポーツ権を保障するか

生涯スポーツ研究部会【課題C】テーマ別シンポジウム／国民の運動・スポーツ参加の現状および問題点：国民のスポーツ権を保障するための施策立案に向けて

コーディネーター：中野 貴博（中京大学）

2021年9月8日(水) 15:30 ～ 17:30 会場5 (Zoom)

ここでは、「国民すべてのスポーツ権を保障する社会構築」を大命題とし、それに基づく生涯スポーツ社会を実現するための施策立案や現状施策の課題、そして、適切な環境構築への提言をすることを最終目的とします。あらゆるライフステージにおける運動・スポーツ参加を促進するための施策立案に少しでも役立つものとなれば良いと考えています。本企画は複数年に渡って実施する予定であり、初年度の2021年度は、様々な世代や対象者の運動・スポーツ参加の状況を共有し、施策や環境上の問題点、および、今後求められる施策などについて議論したいと思います。とりわけ、運動・スポーツ参加の減少が社会問題化している若年世代、そして、現状の政策等では不十分であると思われる中年世代や女性を対象とし、3名のシンポジストにその現状と課題について提起いただきます。各シンポジストからの提言を踏まえ、フロアの皆様と国民のスポーツ参加率が少しでも向上するような方策について議論したいと思います。その上で、今後の施策立案やそのために求められるエビデンスの収集につながるような議論を行うことを目指します。

15:30 ～ 16:10

[生涯スポーツ-SC-1] 中年世代の運動・スポーツ参加の現状と課題

*澤田 亨¹ (1. 早稲田大学)

<演者略歴>

1985年 東京ガス（株）人事部

2012年 国立健康・栄養研究所 身体活動研究部 室長

2018年 早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授

中年世代の運動・スポーツ参加に関する現状は、スポーツ庁の「スポーツの実施状況等に関する世論調査」や厚生労働省の「国民健康・栄養調査」によって調査されています。また、中年世代を対象に含めた運動・スポーツに関する政策は、文部科学省/スポーツ庁の「スポーツ基本計画」や厚生労働省の「健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）」が存在します。そして、両方とも改定作業が進められており、近い将来改定される予定になっています。本シンポジウムでは、中年世代の運動・スポーツ参加に関する現状と課題をみなさまと一緒に確認させていただいた後、「スポーツ基本計画」や「健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）」の概要や改定の状況をご紹介します。そして、これらの政策の科学的根拠（エビデンス）となっている、運動やスポーツが中年世代の人々の健康や幸せ・元気におよぼす影響を調査した研究を紹介させていただきます。そして、中年世代の運動・スポーツ参加に関する課題を解決する方法や課題解決に向けた考え方についてみなさまと意見交換させていただきたいと考えています。

テーマ別シンポジウム | 生涯スポーツ研究部会 | 【課題C】 人生100年時代に向けていかに人々のスポーツ権を保障するか

生涯スポーツ研究部会【課題C】テーマ別シンポジウム／国民の運動・スポーツ参加の現状および問題点：国民のスポーツ権を保障するための施策立案に向けて

コーディネーター：中野 貴博（中京大学）

2021年9月8日(水) 15:30 ～ 17:30 会場5 (Zoom)

ここでは、「国民すべてのスポーツ権を保障する社会構築」を大命題とし、それに基づく生涯スポーツ社会を実現するための施策立案や現状施策の課題、そして、適切な環境構築への提言をすることを最終目的とします。あらゆるライフステージにおける運動・スポーツ参加を促進するための施策立案に少しでも役立つものとなれば良いと考えています。本企画は複数年に渡って実施する予定であり、初年度の2021年度は、様々な世代や対象者の運動・スポーツ参加の状況を共有し、施策や環境上の問題点、および、今後求められる施策などについて議論したいと思います。とりわけ、運動・スポーツ参加の減少が社会問題化している若年世代、そして、現状の政策等では不十分であると思われる中年世代や女性を対象とし、3名のシンポジストにその現状と課題について提起いただきます。各シンポジストからの提言を踏まえ、フロアの皆様と国民のスポーツ参加率が少しでも向上するような方策について議論したいと思います。その上で、今後の施策立案やそのために求められるエビデンスの収集につながるような議論を行うことを目指します。

16:10 ～ 16:50

[生涯スポーツ-SC-2]若年世代の運動・スポーツ参加の現状と施策立案に向けた論点

「スポーツライフ・データ」を手がかりに

*宮本 幸子¹ (1. 笹川スポーツ財団)

<演者略歴>

東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。株式会社ベネッセコーポレーション入社後、ベネッセ教育総合研究所、国内教育事業市場リサーチ等を経て、2016年より笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所に所属。「スポーツライフ・データ」、保護者や小学校の調査等を担当。

本発表では、幼児から高校生までを「若年世代」とし、運動・スポーツ実施率の推移および現在の課題と対応する政策を扱います。若年世代に関しては、2008年に小学5年生・中学2年生を対象とした「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」が始まり、その結果は毎年メディアでも大きく取り上げられています。学術研究においても若年世代を対象としない領域は皆無に等しく、様々な知見が蓄積されています。今回のシンポジウムは複数年企画の初年度に位置づくものであり、個々の論点を掘り下げるのではなく、俯瞰的に現状と課題を整理することを目的とします。運動・スポーツ実施率に関しては、笹川スポーツ財団の「スポーツライフ・データ」の分析結果をご紹介します。「スポーツライフ・データ」は、10代は2001年から、4～9歳は2009年から、子どもと保護者を対象にほぼ隔年で実施している質問紙調査です。若年世代の運動・スポーツ実施状況を継続的に把握できるのが特徴です。本発表では運動・スポーツ実施率の推移や詳細のデータを提示するとともに、各年代の主な課題と対応する政策を概観し、今後の施策立案に必要な論点を考察したいと思います。

テーマ別シンポジウム | 生涯スポーツ研究部会 | 【課題C】 人生100年時代に向けていかに人々のスポーツ権を保障するか

生涯スポーツ研究部会【課題C】テーマ別シンポジウム／国民の運動・スポーツ参加の現状および問題点：国民のスポーツ権を保障するための施策立案に向けて

コーディネーター：中野 貴博（中京大学）

2021年9月8日(水) 15:30 ～ 17:30 会場5 (Zoom)

ここでは、「国民すべてのスポーツ権を保障する社会構築」を大命題とし、それに基づく生涯スポーツ社会を実現するための施策立案や現状施策の課題、そして、適切な環境構築への提言をすることを最終目的とします。あらゆるライフステージにおける運動・スポーツ参加を促進するための施策立案に少しでも役立つものとなれば良いと考えています。本企画は複数年に渡って実施する予定であり、初年度の2021年度は、様々な世代や対象者の運動・スポーツ参加の状況を共有し、施策や環境上の問題点、および、今後求められる施策などについて議論したいと思います。とりわけ、運動・スポーツ参加の減少が社会問題化している若年世代、そして、現状の政策等では不十分であると思われる中年世代や女性を対象とし、3名のシンポジストにその現状と課題について提起いただきます。各シンポジストからの提言を踏まえ、フロアの皆様と国民のスポーツ参加率が少しでも向上するような方策について議論したいと思います。その上で、今後の施策立案やそのために求められるエビデンスの収集につながるような議論を行うことを目指します。

16:50 ～ 17:30

[生涯スポーツ-SC-3] パーソナリティタイプに基づいたスポーツ・身体活動の促進のすすめ

*小笠原 悦子¹ (1. 順天堂大学大学院)

<演者略歴>

中京大学および鹿屋体育大学における競泳コーチを経て、オハイオ州立大学大学院博士課程にてスポーツマネジメントを専攻し、博士号（Ph.D.）取得。2002-2006年に国際女性スポーツワーキンググループ共同議長。現在は現職および女性スポーツ研究センター・センター長。アジアスポーツマネジメント学会会長（2018-2021）。

スポーツイングランドが2014年に14～25歳の約2000名のイギリス人を対象に、スポーツ及び身体活動に関する調査を実施しました。その結果、イギリスの若者は6つの異なるパーソナリティタイプに分類できることを明らかにしました。そして、それぞれは全く異なるパーソナリティ特性を持つことから、彼らへのインタビュー調査から、各パーソナリティごとにスポーツ・身体活動促進のためのアドバイスの方法も開発しました。順天堂大学ではこのデータを再分析し、日本の高校生を対象として、日本の若者のスポーツ・身体活動に関わるパーソナリティが7つに分類できることを明らかにしました。また、各パーソナリティに分類するアルゴリズムも開発し、さらには各7つのパーソナリティごとにアドバイスをする方法についても開発しました。これらの仕組み・プログラムについては特許出願中であり、引き続き、全国各地の高校生データの収集を継続しています。さらに、中高齢女性についても同様の研究を行い、高校生とは全く異なるタイプの7つのパーソナリティの存在を確認しています。これらのデータから見てきた日本のスポーツ・身体活動促進についての知見をご紹介します。